

2015 年度 センター試験 数学 I A(旧課程) (本試験) 分析

全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：4 題	解答数：35 問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化	○ 変化なし ● やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし
<p>総評 解答数は昨年並みだが、いずれの問題も解きやすく、解答時間にも余裕があったと思われる。集合と命題、二次関数、場合の数と確率が、新課程とほぼ共通の問題であり、そのためか集合と命題、二次関数は例年より計算量が少ない問題となっている。データの分析がない分、難易度、計算量などを考慮すると、旧課程の方が取り組みやすい出題であった。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	〔1〕 整式（数学 I） 〔2〕 集合と命題（数学 I）	20 点	〔1〕 展開の基本問題。 〔2〕 命題の対偶、反例の問題。昨年に引き続き、必要条件・十分条件の出題はなかった。なお、(2)で対偶を考えると解答しにくくなるのは、最近の傾向とは異なる。
第 2 問	二次関数（数学 I）	25 点	放物線の平行移動、場合分けが必要な最大・最小問題は頻出テーマ。後半の二次関数の決定問題も基本的。なお「最小値が $f(2)$ になる」の表現が、 $f(2)$ のみか否かにより選択肢が変わるので、戸惑った受験生がいたかもしれない。
第 3 問	図形と計量（数学 I） 図形の性質（数学 A）	30 点	例年通り、前半は数学 I の正弦定理、余弦定理の問題、後半は数学 A の図形の性質に関する問題。昨年より図形の構図が単純で解きやすい。方べきの定理は頻出。弓形の面積の問題はセンター試験としては珍しい。
第 4 問	場合の数と確率（数学 A）	25 点	重複順列の問題。昨年に引き続き、ほとんどの設問が場合の数を求める問題。昨年出題されなかった期待値の問題が復活した。場合分けの誘導が丁寧なセンター試験らしい問題となっている。